

「選挙公報」から参院比例代表選挙を分析する

公明党と共産党の比較を中心に

西川伸一
Nishikawa Shin-ichi

はじめに

本稿では、とりわけ日本の組織政党の双壁といえる公明党と共産党の二〇二二年参院選の「選挙公報」に焦点を絞って、両党の選挙戦略の特徴を明らかにしていく。なぜ「選挙公報」に注目するのか。

衆院総選挙と同時に最高裁判官の国民審査が実施される。投票日に先立って、前者については「選挙公報」が、後者については「国民審査公報」が配布される。私は各回次の「国民審査公報」を収集して記載内容を分析したことがある（拙著（2012）『最高裁判官国民審査の研究』五月書房、第5章第2節）。最高裁判官は「名もない顔もない」存在とみられがちである。しかし、「国民審査公報」を読んでもみると、その印象は大きく変わった。「神を信じ」と信仰告白が書かれていたり、趣味について記した上で「どれも下手」と書き添えられていたり、各自の個性をうかがい知ることができた。

一方、「選挙公報」に関してはさして注目し

てこなかった。政治学の研究蓄積においても、「選挙公報」わけでも「参議院比例代表選出議員選挙 選挙公報」（以下、単に「選挙公報」と略記する）を研究対象とした論文はほとんど見当たらない。とはいえ、比例代表選挙であるから、各政党が原稿を提出している。それを選挙結果と照らし合わせることで、各政党の選挙戦略を知る手がかりになるのではないか。これが本稿の問題意識である。

結論を先に述べれば、公明党は手堅く緻密な「守り」の選挙に徹したのに対して、共産党は「攻め」の選挙に挑んだものの上滑りに終わったということである。

1 現職を優先しなかった公明党

A 「死守議席」は六議席

参院比例代表選挙では、有権者は投票用紙に個人名か政党名のどちらかを記入する。個人名が書かれた票はその候補者を擁立した政党の票とみなされ、まず政党ごとに得票数が集計される。これをドント式で計算して各政党の獲得議

席数が決まる。たとえば、政党Aの獲得議席は一〇議席と決まったとしよう。次にこの一〇議席を政党Aの候補者のだれに割り振るかは、個人名の書かれた票の多い順となる。当選となる順位があらかじめ拘束されていないので、非拘束式比例代表制とよばれる。

各政党の執行部としては当選を強く望む候補者（仮に「重点候補」とする）とさほどではない候補者（「補欠候補」）がいるはずである。三年ごとに参院選はあるので、比例代表選挙で獲得できる議席数にはおよその予測がつく。それが一〇議席だとすれば、一〇人プラスアルファを「重点候補」として地域別なり職域別に割り当てて、個人名での投票を徹底させる。この選挙戦略が組織政党としては合理的といえよう。果たして、公明党の「選挙公報」は次の候補者を顔写真とともに掲げていた（次頁）。

右上に小さな字で「公明党はこの七人をはじめ参院選比例区に一七人を公認しています」と断り書きがなされている。言い換えれば、残る一〇人の候補者は「選挙公報」に氏名すら記載



2001年：8議席
2004年：8議席
2007年：7議席
2010年：6議席
2013年：7議席
2016年：7議席
2019年：7議席

議席を確保しよう
(左表のとおり)。

拘束式比例代表制が
導入された二〇一
年以降における公明
党の比例区での獲得
議席を確認しよう

されていらない。なぜ
候補者数を一七人に
したかといえ、そ
れが一七人から二四
人までだと「選挙公
報」の一頁の四分の
三の寸法を割り当て
られるからである
(公職選挙法施行規
則第二一条第二項)。
参院選で現行の非

公明
6,181,431

竹内 信二 現
横山 正明 現
谷あい 正明 現
熊野 せいし 現
上田 いさむ 現
宮崎 まさる 現
中北 水河 健二 現
島合 中嶋 正貴 現
河野 深沢 孝一 現
大知 伊奈 直雄 現
奈良 淀屋 康治 現
光延

6議席
11.66%

437,228
415,178
351,413
349,359
269,048
268,403
9,695
9,640
9,058
5,417
2,786
1,717
1,212
797
738
730
426

政党名での得票

4,048,585

七人を「重点候補」として「選挙公報」に発表
したのはやや控えめといえよう。選挙結果は左
記のとおりである(出所は二〇二二年七月一二
日付「朝日新聞」、2に掲げた共産党の選挙結
果の出所も同じ)。
獲得議席は二〇一〇年以來の六議席に落ち
た。七人の「重点候補」のうち落選したのは現
職の宮崎勝だった。その得票数をみると驚く。
当選者六人より二ケタも少ない九六九五票で、
次々点の候補者との差はわずか五五票の「誤差」
でしかない。含意を探ろう。
おそらく公明党は支持母体である創価学会の
会員数を慎重に読み込んで、六議席を「死守議
席」と位置づけた。実は二〇一九年と二〇一六
年参院選でも、公明党の「死守議席」は六だっ

た(二〇一九年七月五日付「読売新聞」)。F(フ
レンド)票が想定以上に寄せられたためか、こ
の二回の参院選では七議席を獲得できた。それ
ゆえ七人を二〇二二年参院選の「重点候補」と
した。だが、本音の「重点候補」は宮崎を除く
六人であり、宮崎は現職ながら「補欠候補」だ
ったことが得票数から如実に認められる。
ではどうやって六人を確実に当選させたの
か。全国を六ブロックに分けて六人の候補者を
割り当てて、ブロックごとにその候補者への投
票を集中させたのである。総務省のHPに掲載
されている「参議院議員通常選挙結果調」には、
政党ごとの比例区候補者の都道府県別得票が掲
出されている。その数字からすると横山信一が
北海道・東北ブロック、竹内真二が関東・東京・
甲信越ブロック、上田勇が東海・北
陸(福井を除く)ブロック、熊野正
士が近畿(福井を含む)ブロック、
谷合正明が中国・四国ブロック、そ
して窪田哲也が九州・沖縄ブロック
(ブロック名は仮称)の候補者だっ
たことが推定される。

『公明新聞』紙上には(このブロ
ックに住む支持者はこの個人名を)
のような「露骨」な投票指示は書か

れていない。ただ、七月九日付には「参院選あす投票 青年世代の党員、支持者が決意(下) 比例区 最終盤の拡大で勝つ!」という欄がある。そこで各地の青年党員六人が府県名・顔写真入りの実名で、比例区でだれに入れるかを明言している。もちろん彼ら六人はそれぞれのブロックの候補者を挙げている。

B 定年制の厳格適用

宮崎は二〇一六年参院選で七番目の当選者として滑り込んだ。得票数は一万八五七一票で、この回次の参院選比例区全当選者のうち最少の得票数だった。公明党の比例区の「選挙公報」には六人の「重点候補」の写真が掲載されていた。加えて、その下に「公明党は、参院比例区に上記の六人をはじめ一七人を公認しています」と但し書きがあり、小さな活字で「(順不同)」と添えられた。実際には順不同ではなく北から南へとブロック順になっている。

すなわち、二〇一六年の「選挙公報」でも宮崎を含む残る一人の氏名は記されていない。けれども宮崎は一万八千票余りを集めた。次点の竹内真二(二〇二二年参院選では「重点候補」となり公明党比例区候補者の中でトップ当選した)は七四八九票である。その票差は約一万票

であるから有意といえよう。七議席獲得の見通しが立ち、「補欠候補」の中では宮崎を当選させるよう党執行部はもくろみ、一部の票を宮崎に回させた。こうした推理が成り立ちそうだが。当時、宮崎は公明新聞編集局長だった。

ところが、二〇二二年参院選では「選挙公報」に七人を掲げたにもかかわらず、七議席は無理と判断されて宮崎への支援はなされなかった。

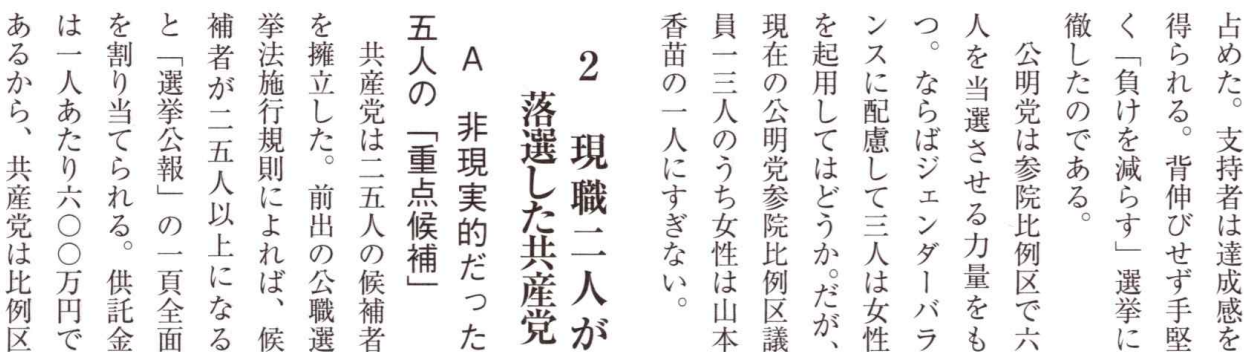
これが宮崎と次々点候補者で、たった五五票の差しかつかなかった説明になろう。二〇一六年参院選で「補欠候補」だった宮崎は、現職でありながら二〇二二年も「補欠候補」にとどめられたのである。一方で二人の新人を「重点候補」としている。他の政党では考えられない「仕打ち」にみえる。しかし、公明党には「任期中に六九歳か、在職二四年を超える場合は原則公認しないとの定年制」が導入されている(二〇二二年七月一日付『日経新聞』)。六四歳の宮崎はこれに抵触するので「原則」的に候補者にはなり得ない。支持者も定年制には敏感なようである。前頁上に掲げた各候補者の略歴の最後には年齢が記されている。しかも「※年齢は選挙期日現在」と付言がある(宮崎の顔写真の上)。

山口那津男・公明党代表は二〇二二年七月一〇日のNHKの番組で、「党の活力は定年制

を実行していることにも表れている」と発言した(同上)。この適用はかなり厳格で、今回の参院選では比例区で当選三回の浜田昌良を引退させ、元衆院議員当選七回の上田勇に差し替えた。浜田は六五歳なので任期中に定年年齢を超えてしまう。上田は一九五八年八月生まれゆえ任期中ぎりぎりで七〇歳に達しない。

さて、公明党は比例区でブロックごとに個人名による投票をよびかけた。けれども政党名での得票が四〇〇万票を上回った。公明党の比例区での全得票数六一八万票余りのうちの六五・五%に達する。個人名による投票依頼はあまり奏功しなかったのか。他方、共産党の政党名得票率は九一・八%である。それぞれの組織内候補がそろうため、個人名による投票が多いとみられがちな自民党でさえ、政党名得票率は七二・一%もあった。

つまり他党と比較すれば、公明党は執行部の詳細な指示を一人ひとりの支持者に滲透させ得る精巧な集票ネットワークを構築していることがわかる。ゆえに「重点候補」に着実に票が集まる。今回の参院選での比例区個人得票ランキングで、公明党候補者は二位(竹内)、四位(横山)、七位(谷合)、八位(窪田)、一位(熊野)、そして二位(上田)とそろって上位を



A 非現実的だった

共産党は二五人の候補者

を擁立した。前出の公職選

拳法施行規則によれば、候

補者が二五人以上になる

と「選挙公報」の一頁全面

を割り当てられる。供託金

は一人あたり六〇〇万円で

あるから、共産党は比例区

3,321,097

現	③	智	子	村	田
前	③	聰	平	比	仁
現	②	友	友	洲	岩
現	④	紀	史	大	武
新	①	良	介	門	山
新		訓	子	本	小
新		早	紀	山	今
新		あ	ゆ	村	片
新		和	子	山	佐
新		とし	子	々	吉
新		恭	子	田	西
新		枝	子	本	丸
新		美	子	由	渡
新		代	子	喜	上
新		清	美	里	花
新		則	彰	木	片
新		朗	子	岡	高
新		生	紀	橋	赤
新		勝	樹	田	富
新		直	博	沢	西
新		真	理	野	細
新		朗	子	川	堀
新		秀	美	田	深
新		時	子	来	政
票	得	の	で	名	党

公明党と異なり、「補欠候補」の二〇人の氏名も五十音順に記されている。同じく公明党と

の違いであり興味深いのは、五人の顔写真の一番左に「比例代表候補」とあり、その下に「(名簿登載順)」と付されている点である。上位四人には現職を配した。

二〇〇一年以降における共産党の比例区での獲得議席は、二〇〇一年・四議席、二〇〇四年・四議席、二〇〇七年・三議席、二〇一〇年・三

議席、二〇一三年、五議席、二〇一六年、五議席、そして二〇一九年、四議席である。二〇二二年参院選で共産党は「比例五議席」を目標とした。

六年前に五議席を獲得しているから、そうせざるを得なかったと思われる。六年前に当選した市田忠義が引退したため、代わりに元参院議員で二〇一九年に比例区で落選した仁比聡平を五人目に入れた。

とはいえ、低調な党勢を客観的にみきわめれば三議席が「死守議席」ではなかったか。名簿登載順に当選を固めてあわよくば武田良介をそこに食い込ませるというのが、現実的な選挙戦略のはずだ。にもかかわらず、これから述べるように、そうした「傾斜配分」戦略は採られなかった。

総務省HPの「参議院議員通常選挙結果調
からは、共産党もブロック別に候補者を割り当
てていることがうかがえる。二〇二二年七月五

日付『しんぶん赤旗』掲載の記事「比例候補奮戦」も参考になる。これら

から各候補者のブ
ロック割当てには
次の見当がつく。
選挙結果もあわせ
て掲げる。

田村智子・南関

東（埼玉を除く）・東京、大門実紀史・近畿、岩渕友・北海道・東北・北関東・埼玉、武田良介・東海・北陸・信越、仁比聡平・中国・四国・九州・沖縄。

二〇一六年の参院選では関東全域が田村の担当ブロックだった。ところが、「桜を見る会」の追及で田村の名前は全国に知れ渡った。無党派層の票も取れるので、共産党比例区でトップ当選はまちがいがなかった。それを踏まえて、党執行部は北関東と南関東のうちの埼玉を岩渕に「割譲」したのだろう。

六年前の田村の埼玉県での得票は一七五二票で、岩渕は四四三票にすぎなかった。二〇二二年には田村が四二八九票なのに対して、岩渕は五一七四票も取っている（埼玉県の個人票がこれだけ増えたのにも驚く）。茨城県と栃木県では、抜群の知名度から田村の票の方が多かった。とまれ、この四県で岩渕が得たのは八一六四票である。これがなければ大門と当落が入れ替わっていた。岩渕を落としてはならないという党執行部の意思が感じられる。これで参院議員七人のうち三人が女性というジェンダーバランスが維持された。

「割を食う」かたちで、四回連続当選（初回は繰り上げ）していたベテラン議員の大門が落

選した。大門は近畿であるから、引退した市田の票が入るものと油断したのか。二〇一六年参院選では市田は京都で一万六三四票、大阪で八二一〇票を獲得している。大門は京都で七七九票、大阪で一万一三六二票だった。すなわち大門は京都では無名の存在にすぎなかった。二〇二二年に大門が市田の票をすんなり引き継げれば二位当選となっていたろう。実際には六一四〇票だった。二〇一六年の京都の票は、書記局長経験者として知名度の高かった市田だから投じられた票がずいぶんあったのである。

武田は五位に沈んだ。それでも得票数は六年前の二万三九三八票とほぼ変わっていない。比例区全体の得票数が六年前の約六〇〇万票、三年前の約四三〇万票から約三六二万票に減少したことからすれば、大いに善戦したといえよう。

彼ら現職議員に対して、二〇一九年参院選で落選した仁比は三年前より三千票近く多い三万六千票余りを得た。割当てブロックの大票田である福岡では三年前より五〇〇票弱減らしたものの、他の都道府県で得票を微増させて二位当選を果たした。三年前にはわずか千票差で落選している。次点バネが薄く広く効いたのか。共産党全体で大きく得票を減らした中では「大躍進」である。

B 常幹の責任を認めた選挙総括

七月一二日付『しんぶん赤旗』に、「参議院選挙の結果について」という一日に出された共産党中央委員会常任幹部会の選挙総括が載っている。「比例代表選挙で（略）「六五〇万票、一〇％以上、五議席絶対確保」を目標にたたかいました」とある。これは明らかに過大な目標設定である。党執行部は本音では三議席プラスアルファと見積もっていた。田村の当選は間違いなく、余裕分を回して岩渕を当選させる。残る三候補には「対等」に競わせて党への得票上積み貢献させる内意だったのではないか。

公明党の場合、「重点候補」と「補欠候補」で二ケタの圧倒的な得票差がついた。「補欠候補」は名前貸しのような存在だった。片や共産党では第五位の武田と第六位の山本の票差は一万票余りしかない。山本は二〇一九年四月の大阪市議会議員選挙にも東住吉区から立候補している。結果は四九六五票で最下位落選だった。だが同年七月の参院選では三万三千票近くも取って仁比に肉薄している。共産党にとって「補欠候補」も得票をかさ上げする貴重な戦力なのだ。共産党の全得票数に占める「補欠候補」の得票数の割合は一・六％（五万八六七八票）

だった。公明党では〇・七％（四万二二二六票）と低くなる。

共産党は公明党とは対照的に「勝ちを増やす」態勢で選挙に臨んだ。ただ、客観的情勢はともそれに見合っていないかった。前出の選挙総括は、比例代表選挙について、「常任幹部会として、こうした結果となったことに対して、責任を深く痛感しています」と述べている。常任幹部会が責任を認めたのは異例である。

前の総選挙では、二〇二二年一月二日付『しんぶん赤旗』に「総選挙の結果について」と題した常幹による同年一月一日付文書が出ていた。そこでは、比例代表選挙の二議席減について「わが党の力不足によるものだと考えています」と総括していた。「一億総懺悔」のように、敗北の責任は常幹にあるのではなく、黨員一人ひとりにあると責任の所在をあいまいにしていた。これと比べれば、二〇二二年の選挙総括は常幹が責任を自覚し、それを「他者」に転嫁していない。共産党の元幹部の筆坂秀世はかつてこう書いた。「日本共産党の選挙総括で特徴的なのは、『共産党の方針・政策や党中央の指導は、いつでも正しい』ということだ。（略）議席を減らした場合は、いかに困難な条件であったかを強調し、その責任を自民党や民主党、メ

ディアなど他者に転嫁する」（筆坂『日本共産党』新潮新書、二〇〇六年、一五四―一五五頁）。

もしこのカルチャーが今回の選挙総括をきっかけに変わっていくのであれば、ずいぶん前に「金甌無欠」とまで揶揄された（一九九三年九月二二日付『朝日新聞』夕刊「素粒子」）党の体質はようやく改められよう。一九四七年の二・一ゼネスト中止を放送した伊井弥四郎が用いた言葉「一步退却、二歩前進」を思い出した。

3 他の政党の「選挙公報」

公明党、共産党以外の政党の「選挙公報」にはどのような特徴があるのだろうか。それを最後に略述しておく。自民党は五十音順に三一人の候補者の氏名・顔写真と本人の一言を並べて、そのあとに「特定枠」の二人を配した。立憲民主党、日本維新の会も同様に並び順は五十音順である。それぞれ二〇人と二六人の候補者氏名・顔写真を載せ各自の短い一言が添えられている。つまり、これら三党はすべての候補者を平等に扱っている。

一方、九人を擁立した国民民主党も全員の氏名・顔写真などの掲載は前記三党と同じであるが、現職の三人を冒頭に五十音順に並べた。四人目は「重点候補」の新人である。結局この新

人と現職二人が当選して、現職一人が落選した。れいわ新選組は「特定枠」一人を含む九人を擁立した。候補者氏名・顔写真を載せているが、並べ方の基準はわからない。NHK党のガーシーは二八万七千票余りを集めて当選した。しかし、同党の「選挙公報」には候補者氏名は一切書かれていない。政党存続の瀬戸際に立っていた社民党は、福島瑞穂党首の顔写真を別格扱いで押し出した。参政党は候補者五人全員の氏名・顔写真・経歴などを載せている。ただしその並び順は不明である。

おわりに

七〇歳になった公明党の山口代表は九月にその任期を迎える。しかし、参院選で「死守議席」は確保したものの比例票を大きく減らしたため、来春に統一地方選を控えて創価学会から留任を求める声が出ている。一方、共産党の志位委員長は八月一日の中央委員会総会で、参院選の結果について「単純な後退と見るべきではない」と述べた。理由はロシアのウクライナ侵攻につけこんだ党への批判の高まりなど「他者」転嫁だった。前者は定年制のなし崩しにつながる。後者の強がりは見苦しいだけだ。

（にしかわ・しんいち／明治大学教授）